

令和4年度 園評価

園番号 8

園名 瀬名川こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
自ら考えて行動する子	自分から「やってみよう」とする子	子どものやってみようとする姿に、一緒に考えたり試したりと、とことん付き合ひ、じっくりと遊ぶ時間を十分確保している	保育者が子どもの遊びの姿から、何に興味を持っているか・どこに面白さを感じているかを探っていた。一緒に遊ぶ中で子ども自身が考え、気づき遊びを進めていく様子を大切に、それぞれの学年の遊ぶ時間が確保できるよう各学年のリーダーが週末に集まり園庭の使い方を話し合った	A	A	目標に向かって、様々な取り組みがされている。園説明を見ても、良かった事が多くあげられていて、成果があったと思われる	子どもの遊びの姿から、思いを考え必要な関わりや環境構成を考えるようになり、子どものやってみようという思いが膨らみ、楽しんで遊ぶ姿が増えた。今後も遊び環境の共有を図っていきたい
		子どもの興味・関心を捉え、やってみようという気持ちが高まってくるような、素材や用具などを職員が用意している	子どもの興味や関心を捉えて、テーマを決めて学年ごとで、教材研究を実施した。それを子ども達の遊びに活かす、必要な素材や用具をタイムリーに準備するようにした。教材研究からでたアイデアは、他の職員へも紙面で知らせ、皆の学びとなるようにした	A	A	自己評価では、Bとしているが、今年度の手立てをしっかりとってきたからこそ、課題がはつきり見えて来たのだから、又、来年度の取り組みのビジョンがすでに見えているのでA評価でよいと思う	保育者は、教材研究を通して様々な素材を提供してきた。来年度は、制作など各歳児が発達に合わせて、色々な用具を使い、様々な素材に触れて遊ぶ経験ができるよう、見通しをもって取り組みを考えていく
		子どもの遊びを見つめ、子どもの「やってみよう」「面白そう」という思いが膨らむような言葉かけや遊びの終わりを意識し、次の日へつなげる投げ掛けをしている	幼児組を中心に、遊びの振り返りの時間を意識して取り入れ、次の日の遊びへの意欲や関心が高まったり、友達との遊びにも興味が高まってきた。どの学年でも、保育の中で、遊びへの意欲や期待が持てる関わりや声かけを大切にしている。また、作った物をもって置くスペースを作ったことで、遊びが長く姿が見られた	B	A		遊びを振り返る事で、明日の遊びへ繋がると感じたので、各歳児に合った振り返りの仕方や内容を考えていきたい。また、作った物をそのままにしていることが多くあるので、遊びのつながりについて環境や関わりについて、引き続き考えていくようにする

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標を日頃から意識し、担任間や学年間で日々子どもの姿を語り合い子どもの興味・関心を捉えた教育保育をすすめている	10分間トークが定着し、担任間だけでなく学年ごとで話したり、フリーの先生と話す機会も増えている。話し合う事が、保育者にとっても振り返りの機会となり、子どもの遊びに合わせた明日の保育の見通しに繋がっている	A	A		定着した10分間トークを保育にタイムリーに活かしていけるように、職員間で共有できるための手立てを考えていく。話し合いの時間が、定着する様にシフトに組み込んでいくようにしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや、生活リズムに合わせた丁寧な援助が出来ている。又、不安や心配な思いを受け止めてスキンシップや温かな声かけにより子どもが安心して自分の思いを表現している	保護者とのコミュニケーションを積極的にとり、子どもの家での様子や生活リズムを把握し、それを日々の保育に活用している。特に、乳児組では、一人一人の生活のペースを大切に、食事や睡眠について対応している。	B	B	乳児は個々に合わせた生活のペースを大切にしているという事だったが、皆がお昼寝をしている時に、1人だけ起きていて、ような状況は、子どもにとつかわいそうな気もする。忙しい先生方からしたら、迷惑ではないかと考えてしまうため、なかなか保護者からお昼寝を短めとお願いしにくい。	乳児期は、ひとりひとりに合わせた生活リズムで心地よく過ごせる様に連絡ノートを活用したり保護者との連絡をしっかりとるようにする。又、温かな声かけを大切にしていけるように職員間でも意識し合い、関わりを考えていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの興味関心に合わせた環境となるように、共通の環境図を活用し、職員間で共通理解している。環境図が週末には更新され、遊びの継続が意識出来ている	毎週、事務室入口のホワイトボードの環境図の更新に加えて、毎週金曜日に学年リーダーが集まり、今週の遊びや次週に予想される遊びの様子を伝え合った。ねらいを共通理解している事で、園庭の使い方などお互いに見通しがもて、異年齢の交流が持たたり職員の連携も強化された	A	A		ホワイトボードの環境図を週末更新する際に、学年リーダーが話し合う時間を作った事が、遊びの共通理解に繋がったので、次年度も継続していくようにする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	災害・不審者訓練・交通安全などを通して、取るべき行動等、職員全員が十分理解し、絵図を使うなど工夫し子どもに指導している	色々な時間や場面でとらえた避難訓練が、月に1度実施され、職員と子どもの災害時の行動が身に付いてきている。反面、訓練の実施により課題も明確化しているもの、全職員に周知が難しい状況もある。分掌ボードを引き続き活用し、タイムリーに情報伝達を大切に	B	B		各訓練の学びや課題を、分掌中心に取りまとめても、全職員への周知ができないことがあった。伝達の仕方を決め、分掌ボードを活用した周知方法を考えていく
		(1)健康教育の充実	新型コロナウイルス感染症の感染対策が、常に実践されていると共に、職員への健康・安全に関する研修が計画され実施している	新型コロナウイルス感染症の地域での拡大傾向を受け、園での消毒や換気、密を避けた活動の実施、他にも、職員・園児共に、体調の管理を丁寧に、様子がいつとも違うなど、些細な変化も見逃さず、休息をとったり早めに保護者に連絡して、感染予防に努めている	A	A	支援児への対応や研修会については、トロロの会の実施が計画的に進まなかったとの課題があげられたが、運動会などで、保護者として子ども達の様子を見ていても、加配児も楽しく参加出来て、先生方の対応の良さを感じた
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の特性を理解した上で、支援計画を立て、支援を実践している。専門機関と協力し、講師を招いた勉強会で支援方法を検討している。	加配児の遊びの様子を捉え、担当の職員間で意見交換を実施した。担当者から上がった悩みを基に、専門機関の先生とのカンファレンスを計画・実施しサポートプランの書き方や子どもの発達を捉える視点など、参考になる話や支援方法をアドバイスしていただき、保育に活かしている	B	B		支援児の保育については、専門機関の講師によるカンファレンスを継続し、関わりや保護者対応についてのスキルアップに繋げていく。トロロの会の実施の仕方は、子どもの様子に合わせ計画を立て確実に実施していくようにする
		(1)組織体制の充実	分掌が整理され、一人一人が役割を持ち、分掌で協力しながら実践がすすめられている。分掌の進行状況や投げ掛けが、ボードに掲示され職員間に共有されている。	各分掌の取り組みが軌道に乗り、それぞれが必要な活動を考え実施する姿が増え、そこから見えてきた課題や他の職員への連絡を、ホワイトボードにて紹介するようになってきた。ただ、ホワイトボードを確認し忘れる事があるので、ボードの確認が習慣化するように工夫していく	B	B	西奈南小学校に、今年度から通級指導教室が始まり、専門の職員が週5日いることで、担当職員も悩みを相談出来たり、保護者の不安のケアに繋がっている。こども園の就学を控えた保護者の方が、不安を抱えている事や、職員の研修等で、今後交流するとう良い。
6 研修	(1)研修体制の充実	職員が週に一度子どもと遊ぶ時間を設けて、子どもの理解を深めている。研修部が中心となり園内研修を進める中で子どもを中心とした話し合いをし自分の意見を活発に伝える場となっている	各クラスで実施してきた研究保育をすることで、研究会で担任の悩みや保育の視点を、職員皆で考え意見を出し合え、それぞれの気付きや学びに繋がった。限られた時間内でいかに学びを深めているか-を考えた今後の研修の進め方を考えていく	A	A		皆が意見を出しやすいように、小グループでの話し合いをしたり、ホワイトボードに事前に要点をまとめ、参加者に目を通してもらうなど、時間短縮できる進め方の工夫を、継続していく。又、参加しない職員への周知を徹底するように伝達ルートを作っていくようにする
		(1)教育・保育環境の充実	子どもが安全に生活ができる場が、常に整備され必要に応じた修繕がされている	修理が必要な場所について、職員が声を出し合えずに、キッズガードさんによる修繕がなされた。掃除や草取りにしても、調理員やブリー保育教諭も加わり対応し、心地よい環境になっている。ただ、教材の整理整頓が出来ていなかった	B	B	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	参加会や面談を通して保護者と、子どもについて語り合う機会を作り、又、子どもの園生活・姿についてのおたよりやドキュメンテーションで伝え、子育ての悩みや楽しさを伝え合っている	幼児は表現遊び参観会・乳児は参加会を実施し園での遊びや生活の様子をみてもらう機会を作った。他に行事などを、ドキュメンテーションでタイムリーに発信し、子ども達の楽しそうな取り組みの様子を紹介し、親子で今日の活動を話さきっかけとなるようにした	A	A	家庭・連携園・小学校・地域等の連携については、コロナ禍で限られた中で、出来る交流・行事などを考えて取り組んでいるのは良い	年度初めに、各学年の参加会や個人面談の時期やおおよその内容の確認をして、計画的に進められるようにする。行事についても、ねらいを持って様子を保護者に伝えていくように分掌を交えた計画を作成していく
		(1)近隣の園との連携の推進	公開保育、公開授業・学校訪問で交流を持ち、又、園の教育保育について「せなっこだより」で、発信している	せなっこだよりを、連携園や小学校に届け、子ども達の遊びを紹介し、連携園と2歳児が交流したりして、来年を見据えた取り組みを実施している。小学校で作成したアプローチャリキュラムを届け、公開保育の誘いや鉛筆の持ち方教室の依頼をしたり小学校への接続に繋がっている取り組みを考えて発信している。また、今年度は中学校からも講話や、来園依頼を受け交流をしている	B	A	保護者としては、ドキュメンテーションで写真で遊びの様子を知ることが出来る親としては嬉しい、子ども自身も喜んでいて。せなっこだよりでは、遊びや生活の様子に加えて、職員の研修の内容なども発信されている、園の様子分かり良い。園で取り組んでいる事を発信していくことは大切。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンを実施し、地域の子育て家庭へ情報やこども園の教育保育についての発信をしている。連携園への、公開保育の案内を送り、地域の子育てでの連携に努めている	おしゃべりサロンや園見学の際、子育ての悩みを聞いたり、園生活について紹介し、地域の子育て中の親御さんの不安に応え、子育て支援を実施。地域の文化展に作品を出品したり、市の保育イベントに職員が参加し、広く子育て支援や地域との交流に努めている	B	A		コロナ禍でも、感染対策を取りながらおしゃべりサロンの実施をし、園見学は今年度同様サロンの最後に組み入れていく。地域の方との交流の機会を引き続き実施していく